

令和7年10月

神

意

月

あ お ぞ ら

鹿屋市青少年育成センター

第416号

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「先人の学校への愛情と情熱に触れて」

先日、本校及び西原小学校、第一鹿屋中学校が有する「学校林」を元PTA会長さんに案内していただき見学する機会があった。その林は高隈山地の南端に位置し、面積約6haの山間部にスギやヒノキが植林されている。植林については、鹿屋市の部分林として借り上げ、1950（昭和25）年から1970（昭和45）年頃にかけて植栽されたとのことで、樹齢の長いもので70年以上になる。長い年月をかけて育まれた木々は、幹も太く天高く堂々とそびえ立っていた。その木々の合間を湧き水が集まり小川が流れていた。「学校林」は長い年月を経て自然豊かな森林として形成されていた。

「学校林」植林事業は、歴史を紐解くと明治時代に学制が制定され義務教育が始まった頃に遡るようである。当時、学校の設立維持に関する経費は学区内の住民が負担することとなっており、多くの学校では教育費を賄う基本財産を所有していなかったため、植林事業によりその不足を補う取組が始まったとのことである。

戦後、学校給食が教育の一環として位置付けられたが、本校区では、当時は生活に困窮する家庭も多く、せめて給食だけは子どもたち全員に食べさせたい、という地域住民の願いから、その費用を賄うため植林事業が始まったとのことであった。植林後も地域住民やPTAを主体しながら、雑木や下草の伐採や、スギやヒノキの枝打ちを行ったり、第一鹿屋中学校の生徒も学校行事の中で学校林まで登山し、やぶ払いをしたりして、先輩方が遺した（学校林）と

鹿屋市立西原台小学校 校長 西 康人

いう遺産を守り育ててきた。

本校は、創立47年と比較的新しい学校であるが、創立当時は真新しい校舎と体育館以外の整備は、地域住民やPTA会員を中心とした奉仕作業による花壇づくりや芝植えなどの緑化事業の推進、「学校林」の間伐材を利用したアスレチック遊具の整備、ランドピアノ購入のためのバザーや廃品回収の実施など、教育環境整備に膨大な時間をかけ労力を惜しまず、学校のため、子どもたちのために取り組んでいただいたことが、創立10周年記念誌からもうかがえた。

今回、「学校林」に触れる機会を得たことで、先人たちや創立当時の保護者や地域住民の方々の、学校にかける熱い思いに改めて胸を打たれた。将来の教育費に充てるために、何十年という歳月をかけて木々を育て、地域全体で子どもたちの学びを支えようとする壮大な計画に、ただただ頭が下がる思いである。子どもたちの未来を思い、「子どもたちにより良い教育環境を」という先人たちの熱い思いがあったからこそ、今の本校や私たちがいるのだと深く実感している。この熱い思いが原動力となり、今の学校を創り上げていただいたと思うと、明日を担う今の子どもたちの教育に携わる私も、創立当初の精神を受け継ぎ、地域の中の学校として、子どもたちにとっての「学び舎」を継承していくという使命感を強くもち、教育に当たっていかねばならないと肝に銘じたい。